



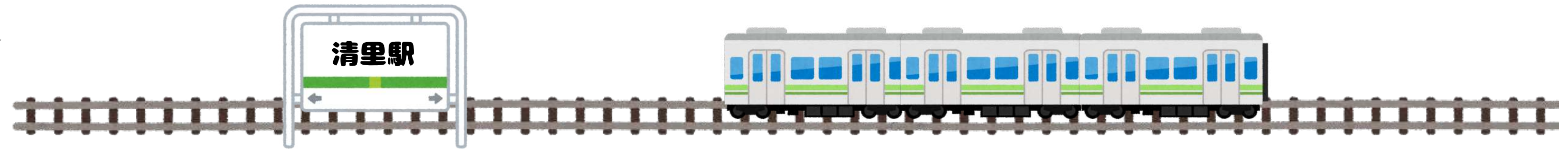
学童保育のあ

のあだより3月号

2025.3

住所：栄区桂台西1丁目30-7
Tel/Fax：045-410-8404
E-mail：gkdnoah@gmail.com
運営：特定非営利活動法人
のあインターナショナルスクール
URL：https://www.noah-is.jp/

高学年キャンプ



2月15・16日(土日)山梨県北杜市清里にある八ヶ岳少年自然の家に子ども7人、保護者4人、スタッフ4人、総勢15人で行ってきました。

往復電車です。往路は各駅停車で本郷台から59駅を通過、片道約4時間の行程、復路は特急を使い1時間短縮。日頃車移動の多い子どもたちには目的地に着くまでトットコトットコと4時間も乗るのはひと苦労、しかしこのように受け入れ難いことも子どもたちは受け入れ、文句なしに楽しみにして参加します。電車クイズ、一部期間での読書タイムその後には待っているおやつタイムのプログラムにも忠実に従って電車旅行を味わいます。

小淵沢で2両編成の小海線に乗ると間もなく清里、窓外の景色の中に雪はないか？今年はないよなあと諦め半分で目を凝らす数人、しかし次の瞬間「雪だ一残ってる！」と興奮しきり。雪国ならこんな雪無いに等しいけれど、俺たちにとっては無いと思っていたのに少しあるんだから感動だよな！と喜び合い、そして少年自然の家には昨年よりは少ないけれど確かに雪遊びにはまあまあの雪が日陰に手付かずで残っていました。小川はあちこち厚く凍っていて、その縁には霜柱や下から生えてきたような氷柱みたいな氷、軒下は雪が凍ってツルンツルン、実際ステーンと滑って転んだ子もいました。

13時到着後、寝る時間を除いて、翌日13時まで飽きることのない遊びの時間が続きました。とことん雪遊び～暖かいプラネタリウムで時々ウトウトしながら冬の星座の数々を確認し、いにしえからの星にまつわるお話を聞く～夕食～入浴～体育館でのスポーツ色々(バスケット、卓球、カーリング、野球)、そして就寝～目覚めて朝食～部屋の片付け、荷物整理～ジョイジョイタイム～木工室でスプーン、フォークの柄に絵柄や彫りを入れていく工作、初めてホットペンで焼印を入れる体験をたっぷり2時間楽しみ～野草の丘まで散歩し広い野原でおにぎりとおパンを食べ～清里駅に向かい帰途に着きました。ほぼ無駄な時間や退屈な時間なく、全員仲良く笑顔で楽しんだ至福の時間でした!!

チャレンジプログラム

2月下旬からチャレンジポイントを再開しました。今回のチャレンジには「読書」を入れました。学童に本類は沢山あっても手に取って読む子が少なくて残念で、今回の取り組みは「子どもたちよ本好きになってくれー、それはきっと豊かな人生に繋がるものがあるはずだー」というスタッフの強い思いから出て来たものです。宿題したら1p、ミーティング参加1p、百人一首参加1p、「ジェニーと遊ぼう」1p、習字2p、読書2p～12p、入退館システムにピットするのを忘れたら-1p・・・このお陰でみんな気をつけるようになりました！チャレンジプログラムは案ずるより産むが易しで、順調なスタートを切り、読書については、この子はとても、、、と思っていた子まで、ほぼ全員が励んでいて、「静かに読書している子どもたちがあっちにもこっちにも」という信じられない光景が展開する時間が毎日あります。子どもたちがゲットしたポイントは25日の駄菓子屋でのお小遣いに換金される予定です。



2024年度のお記念日

関係者の方々に案内しましたように、「学童保育のあ」の成り立ちと毎年積み上げられていく「学童保育のあの歴史」を確認する時として2月8日を「学童保育のあ記念日」として制定し2022年より実施してきました。今回は8日が土曜日であることから前日の7日(金)に行いました。当日は出席児童の他保護者やOGも参加、セレモニーは以下のような流れで進められました。

＊歌「この星に生まれて」

＊富江「なぜのあ記念日なのか？」

＊「天国に帰って行った少年」の思い出スライドショー

＊鈴木恵子さんから

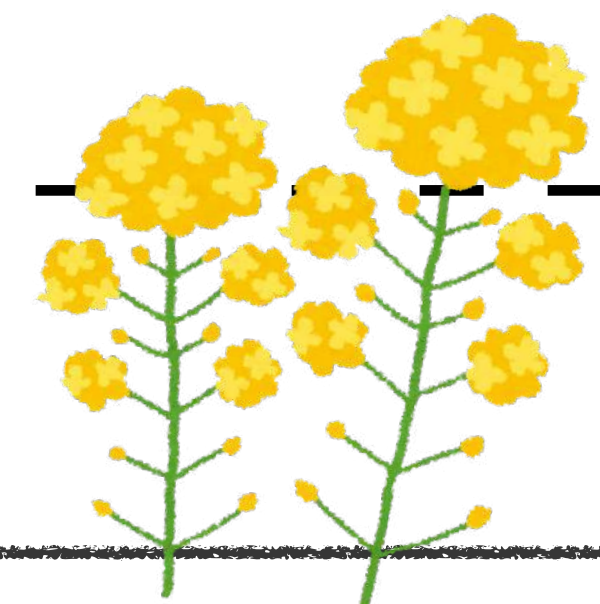
今回は2019年学童開設準備委員会立ち上げのメンバー4人中の1人、鈴木恵子さんがお話ししてくださいました。恵子さんは、学童の事務会計担当の役割を担いつつ、週数回は本職の一般財団法人オアシスを一時抜け出して保育や給食づくりのサポートに入ってください、その後2023年途中まで事務会計の責任者で、後進の阿部ひかりスタッフの指導にあたり、確実に一人歩きできるスタッフへと育ててくれた人です。また学童の三つ折りパンフレットや年数回地域に配布する学童PRのチラシ、学童をアピールするロゴの作成等多岐にわたり草創期の学童を支えてくださいました。ショートメッセージではそのロゴの成り立ちについて、にじの部分にはノアの箱舟が洪水から守られて後に現れた『にじ』を表し、お家のイラストは「学童保育がみんなにとって『もうひとつの家』なんだよ」という意味があることを話してくださいました。



＊山木龍生くんから

ゆったり構えどちらかと言うと静かなイメージの龍生くん。彼は学童を作ることを最初に夢見た「栢恵太」くんの教え子です。その日の語り口はいつもの龍生くんとはガラリと違って、青年らしい力強さとほとぼしりするような強い声で心に刺さるものがありました。「俺は今日みんなに大事なことを2つ話す。まず、みんなには恵太君みたいになってほしい。恵太くんはコマやけん玉、歌、なんでも上手だったけどそういうことじゃない。だれか困っている子はいないか、悲しい子はいないかいつも見ていてそんな子の友だちになってくれた。もう一つ、これはオレの友達のことなんだけど、そいつは恵太君が亡くなる前の日に恵太君とケンカして、「死ね！」って言っちゃったんだ。いつだって今日が誰かと過ごす最後の日かもしれない。だから最後の言葉は後悔のないようにって思うんだ。ケンカしてむかついてとかいろいろあるけど、帰るまでにごめんね、いいよ、って言えたらいいな。」

＊歌「花も」



味噌作り



2/10(月)、上郷小が代休で朝から1日保育の日、学童のあ初めての味噌作りに挑戦しました。昔から「寒仕込み」といって、カビや雑菌の繁殖が少なくゆっくり熟成させることができるこの時期が味噌作りには最適とされています。経験豊富な平田さんをお願いして教えていただきました。親指と小指で軽く潰せるほど柔らかく煮た大豆をマッシャーですっかり潰して、米麴、麦麴、塩と混ぜ合わせ、お団子状にまとめて容れ物に入れていきます。やる気満々の3人の子どもたちがこの作業に加わりました。粒が全く無いほどに滑らかに豆を潰すには力も根気も必要です。団子の空気ぬきも大切な作業です。密封して台所の床下に寝かせています。暑い夏を越えて10月くらいには出来上がるとのこと。味見が楽しみ！そして冬休みにはみんなであっさり「手前味噌」のお味噌汁を味わえることでしょう。のあ味噌さん、じっくり育てね。

